



保育者養成校における主体的な学びの場 子ども学科特別行事 「まみむめめじろ かきくけこども」

2003年度より短期大学部として子ども学科は開設され、4年後の2007年度から目白大学に移行した。保育士資格、幼稚園教諭一種免許状などの資格取得を目指す学生を受け入れた。資格取得には、専門知識だけでなく実践の場において主体的に動くことのできる質の高い保育士、教員の養成が望まれている。

目白大学の教育理念の中に「育てて送り出す」という社会的使命を掲げている。多様に変化する現代社会にお

いて、生き抜く力を持った人材育成を行っている。学生が入学した時から、どのように育て、社会に送り出すかを教員の課題としている子ども学科は、専門性と実践力の発揮できる感性豊かで質の高い幼児教育者の育成を目指している。現在、約600名の学生が子ども学科に在籍し、さまざまな体験を通し学んでいる。



2016年度終演後の有志学生

活動の目的および概要

子ども学科では、子ども学科特別行事として「まみむめめじろ かきくけこども」発表会を実施している。この発表会は子ども学科の教育課程である図画工作・音楽・体育の授業の成果を総合的に発表することによって卒業後に幼児教育に携わる学生の資質向上を目的とする。

この行事は子ども学科特別行事として実施しているが、カリキュラムには取り入れられていない。学年の壁をなくした全学年参加型であり、全員がすべてにおいて自主的に行動を決定し、学生たち自身がこの行事のために考え動き、より良い学科行事にして行く活動である。

活動期間

2016年4月～2016年12月10日（おおよそ9ヶ月）

2015年度より12月の第2土曜日になり、今年度で12年目を迎える。

参加人数

226名（1年生139名・2年生27名・3年生55名・4年生5名）

活動状況

役者班、音楽班、体育班、美術班、広報班の5班に分かれて作業を行う。

- ・ 役者班 オリジナル劇の台詞練習
- ・ 音楽班 劇中で流れる音楽の作曲や会場内で演奏する曲の練習
- ・ 体育班 1年生：前座として演技 3年生：劇の効果上げるためのダンス
- ・ 美術班 大道具班、小道具班、館内装飾班、衣装班の4つに分かれ制作作業
- ・ 広報班 近隣の園や施設などで宣伝活動

1年生は秋学期のベーシックセミナーの授業で、学科特別行事として制作作業と鑑賞会を3コマ使うがあとは自由意志で有志として参加をする。2年生～4年生までは有志として参加をする。実習や授業の関係から3年生か

ら総リーダー1名を立て、全学年をまとめる。総リーダーのサポートでサブリーダーが付き、2年生と3年生の有志学生が1年生のリーダーとしてグループを取りまとめている。4年生は卒業研究があるため本番3週間前に元役者班の少人数が有志となり、1年生とともに前座を演じる。

今年度は新宿キャンパス佐藤重遠記念館が耐震工事のため、4号館メインアリーナで開催となった。メインアリーナは体育館のため、佐藤重遠記念館とは設備面など、全ての条件が昨年までとは異なる施設である。当初、学生たちは混乱したが、総リーダーの「これは今までにないことで自分たちにとって最大のチャンスだ」という発言で、活動学生全員が逆転の発想となり、チームとしてまとまりが出た。一つの作品を創りあげて行く段階でチームワークの大切さを学び、大人数で行う行事の意味をさらに理解できた言葉であった。

この活動を通し保育者としての倫理観を築き、適切なコミュニケーション能力、プランニング力、適応力、判断力が身に付いたと言える。特に作業をスムーズに進行させる上で、報告・連絡・相談は欠かすことができない。これは社会で求められる基礎力である。また、保育現場に必要な制作のための様々な素材を知り、その特性を生かした制作技術を身につけることができた。何より、技術以上に保育者としての感性と創造力を豊かに

培うことができた。子ども学科特別行事を通して社会に貢献することに喜びを見出すことができる人間に成長できることを期待している。

美術教育の観点から

保育者育成校における美術教育とは、保育者としての倫理観を築くことや、適切なコミュニケーション能力、プランニング力、適応力、判断力を身に付けることが期待される。さらに技術以上に保育者としての感性と創造力を豊かに培うことが、美術教育として重要なことではないかと考える。

この取り組みは今年で12回目の開催となり、規模が大きくなればなるだけ、学生たちのプレッシャーになり、昨年度よりも作品の完成度を上げたいと思うあまり、年ごとに装飾のクオリティーを求め過ぎている傾向がある。体力的、精神的に追い込まれてしまう学生も少なくない。

学生自身が自分たちで考え、話し合い、それらを踏まえて行動し作品を作り上げることの重要性など、子ども学科特別行事は沢山の可能性を秘めているのである。また、思っていた以上の作品が仕上がったことへの感動



舞台背景制作



制作風景

や満足感を、毎年多くの学生が感想として述べている。学生の達成感と充実感は、学生自身の大きな力となっている。

今年度の子ども学科特別行事は2016年12月10日（土曜日）に開催された。当日はたくさんの子どもや近隣の

幼稚園、施設、学生の保護者、卒業生など1,000名を超える来場者があった。4月から今年度の計画が始まり、学生が学生による学生のための子ども学科特別行事は、他大学には類を見ない主体的な学びの場なのである。



劇の様子



体育班のダンス



フィナーレ



終演後のお見送り